第３章　来訪者の滞在時間と消費金額

1. 来訪者の標準的な滞在時間

各地区の来訪者の活動タイプ A～E の 5 つに類型化(表 3.1)し、各タイプ別来訪者の滞在時間と消費金額（飲食・買物）を集計した。

前回調査（平成 20 年度）との比較では、上野・浅草両地区とも、観光施設に立ち寄る来訪者（A～C の各タイプ）の割合が減少している。(表 3.2)

表 3.1　来訪者の活動タイプ

タイプ	特徴
A	観光施設に立ち寄り(博物館・美術館での芸術鑑賞や動物園見学、花やしき来園、落語等の演芸鑑賞)かつ、当該地区で自身の「行きたかった店」で「買いたかった(食べたかった)商品」を購入または飲食した(**「意図ある消費行動」**を実施した)来訪者。
B	上記 A タイプ以外で、観光施設に立ち寄りかつ、当該地区で買物または飲食した来訪者。
C	観光施設に立ち寄ったが、当該地区で買物や飲食はしなかった来訪者。
D	観光施設に立ち寄らず、当該地区で自身の「行きたかった店」で「買いたかった(食べたかった)商品」を購入または飲食した来訪者。
E	それ以外の来訪者(日常目的・業務目的、または寺社参拝、散歩・散策のみを行なった)。

表 3.2　各タイプに属する回答者数

タイプ	上野地区		浅草地区	
	平成 22 年	平成 20 年	平成 22 年	平成 20 年
A	111(30.1%)	158(29.1%)	17 (5.4%)	38(12.5%)
B	129(35.0%)	210(38.7%)	9 (2.9%)	26 (8.6%)
C	43(11.7%)	102(18.8%)	6 (1.9%)	6 (2.0%)
D	42(11.4%)	27 (5.0%)	155(49.7%)	123(40.5%)
E	44(11.9%)	46 (8.5%)	125(40.1%)	111(36.5%)
計	**369 (100%)**	543 (100%)	**312 (100%)**	304 (100%)

(1) 上野地区

上野地区における来訪者の標準的な滞在時間を示すため、各グループにおける回答者の滞在時間の中央値を求めた（表 3.3)。その結果、前回調査（平成 20 年度）と比較して、全てのタイプで滞在時間が増加しており、全体でも 50 分延びている。

ただし、Aタイプ「観光施設に立寄り、意図ある消費行動を行った」来訪者の滞在時間がもっとも長い（太字表示)。

表 3.3　各タイプの標準的な滞在時間（上野地区）

タイプ	滞在時間	
	平成 22 年	平成 20 年
A	**4 時間 15 分**	3 時間 30 分
B	4 時間 00 分	3 時間 30 分
C	2 時間 30 分	2 時間 00 分
D	4 時間 00 分	2 時間 30 分
E	3 時間 00 分	2 時間 00 分
全体	**3 時間 50 分**	3 時間 00 分

(2) 浅草地区

観光施設への来訪者割合が多かった上野地区とは異なり、浅草地区では、DタイプやEタイプ（表 3.2)「ぶらりまち歩き」の割合が高い。また、観光施設に立ち寄るも「意図ある消費行動」を同地区で行わなかった。

※タイプBおよびCに該当する回答は 10 人未満であることから、分析対象からは外した。

花やしきや演芸鑑賞に訪れるAタイプの滞在時間は、他のタイプと比較して長くなる傾向がある一方、前回調査（平成 20 年度）と比較して、上野とは反対に全体で 20 分短い結果となった（表 3.4)。ただし、上野と同様に、Aタイプ「観光施設に立寄り、意図ある消費行動を行った」来訪者の滞在時間がもっとも長い（太字表示)。

表 3.4　各タイプの標準的な滞在時間（浅草地区）

タイプ	滞在時間	
	平成 22 年	平成 20 年
A	**4 時間 20 分**	4 時間 30 分
B	―	4 時間 00 分
C	―	―
D	2 時間 40 分	3 時間 00 分
E	2 時間 00 分	2 時間 00 分
全体	**2 時間 30 分**	2 時間 50 分

＊ B, C（B は今回調査のみ）タイプは、回答数が 10 未満であり、集計から除外した。

2. 来訪者の標準的な消費金額

次に、各地区の来訪者の活動タイプ別（表 3.1）に、来訪者の標準的な消費金額飲食代と買物代に分けて集計した（表 3.5)。なお、標準的な消費金額を示す代表値として、引き続き「中央値」を用いるとともに、消費活動をしていないグループCを除き「平均値」も示した。

(1) 上野地区

上野地区では、飲食代、買物代ともに、前回調査（平成 20 年度）と同じ結果となった。飲食代の中央値は 1,000 円、買物代は 0 円となり、来訪者の半数強が買物消費をしていないことが分かった。(表 3.5)

消費金額の平均値では、飲食代が増加、買物代が減少しているが、統計学的な検定（平均値の差の検定）の結果、いずれも平均値に有意な差は認められず（飲食代p=0.24、買物代p=0.19（※コラムⅠ参照))、前回調査（平成 20 年度）とは誤差の範囲の結果であることが分かった。

「意図ある消費行動」を実施したA、Dの各タイプは、それぞれ、B、Eの各タイプの標準的な消費金額（中央値）よりも、500～2,000 円高い結果となった。

表 3.5　各タイプの標準的な消費金額（上野地区）

タイプ	飲食代		買物代	
	平成 22 年	平成 20 年	**平成 22 年**	平成 20 年
A	**1,500 円** **(1,898 円)**	1,600 円 (1,830 円)	600 円 (1,757 円)	1,000 円 (2,221 円)
B	1,000 円 (1,495 円)	1,000 円 (1,250 円)	0 円 (795 円)	0 円 (1,230 円)
C	0 円	0 円	0 円	0 円
D	1,250 円 (1,504 円)	1,500 円 (2,750 円)	**2,000 円** **(3,685 円)**	500 円 (3,444 円)
E	500 円 (742 円)	0 円 (584 円)	0 円 (873 円)	0 円 (3,234 円)
全体	**1,000 円** **(1,350 円)**	1,000 円 (1,185 円)	**0 円** **(1,330 円)**	0 円 (1,545 円)

＊（　）内は平均値。その他は中央値。

※本年度調査は、前回調査より高精度を期するため平均消費金額には、「ゼロスペンディング＝直接消費行動を伴わない来訪者」を参入した。上記表は経年比較用に前回調査結果を本年度と同じ基準に修正した。

(2) 浅草地区

浅草地区では、飲食代の中央値が前回調査(平成 20 年度)から下がった一方で、買物代の中央値は上昇した。しかし、いずれも消費金額の平均値は 2 割程度下降している。このことから、飲食に関しては、比較的廉価な商品を指向する一方、買物については中央値に比して高額な購入をした回答者が減少したことが読み取れる。

但し、消費金額の平均値に関する減少について、統計学的な検定（平均値の差の検定）を行った結果（飲食代p=0.11、買物代p=0.22（※コラムⅠ参照））で、いずれも平均値に有意な差は認められず、消費金額の平均値が減少したという仮説は保留する。

表 3.6　各タイプの標準的な消費金額（浅草地区）

タイプ	飲食代		買物代	
	平成 22 年	平成 20 年	**平成 22 年**	平成 20 年
A	**2,000 円** **（2,908 円）**	2,000 円 （3,000 円）	**4,000 円** **（4,993 円）**	2,000 円 （7,520 円）
B	―	1,200 円 （1,670 円）	―	600 円 （1,534 円）
C	―	―	―	―
D	1,500 円 （1,600 円）	2,000 円 （2,356 円）	2,000 円 （3,737 円）	2,000 円 （4,977 円）
E	510 円 （1,083 円）	500 円 （952 円）	1,530 円 （2,227 円）	800 円 （2,110 円）
全体	**1,000 円** **（1,429 円）**	1,260 円 （1,802 円）	**2,000 円** **（3,082 円）**	1,500 円 （3,850 円）

※ B，C（B は今回調査のみ）タイプは、回答数が 10 未満であり、集計から除外した。

※（　）内は平均値。その他は中央値。

※本年度調査は、前回調査より高精度を期するため平均消費金額には、「ゼロスペンディング＝直接消費行動を伴わない来訪者」を参入した。上記表は経年比較用に前回調査結果を本年度と同じ基準に修正した。

(3) 入場料等および宿泊料に関する消費金額

上野・浅草各地区の来訪者一人あたりが消費した、入場料等（入場料・施設使用料）と宿泊料の中央値と平均値を求める。

入場料等に関しては、回答全数の集計に加えて、観光施設に入場した、もしくはイベントに参加したと回答した回答を「活動実施者」として集計した。その結果、美術館等への入場者割合が高い上野地区の方が回答全数における消費金額が多くなる傾向が示された（表 3.7）。一方、活動実施者に限定した集計では、浅草地区の方が中央値、平均値ともに高くなっている。

表 3.7　活動実施者の入場料等に関する消費金額

上野地区	浅草地区
1,300 円 （1,169 円）	2,000 円 （1,883 円）

※上野地区は、回答率が低いアメ横上野口で配布した回答にウェイト（ 3.3 倍）を乗じて集計している。

※当該調査は、文化観光施設への入場など、直接当該行動を実施した回答者のみ集計対象とし、前項の「ゼロスペンディング＝直接消費行動を伴わない来訪者」を集計に含めない。（ ）内は平均値。その他は中央値。

宿泊料に関しては、回答全数の集計に加えて、台東区内に宿泊した回答者を「活動実施者」として集計した。その結果、来訪者に占める宿泊者割合が高い浅草地区の方が消費金額の多い傾向が示された（表 3.8）。なお、来訪者調査では、調査日前日と当日の宿泊状況を質問しているため、連泊した回答者の回答は、各日の宿泊料を合算して集計している。

表 3.8　宿泊者の宿泊料に関する消費金額

上野地区	浅草地区
（17,747 円）	8,000 円 （9,305 円）

※ 上野地区は、回答率が低いアメ横上野口で配布した回答にウェイト（3.3 倍）を乗じて集計し、宿泊など直接当該行動を実施した回答者のみ集計対象とし、前項の「ゼロスペンディング＝直接消費行動を伴わない来訪者」を集計に含めない

※ 上野地区の「活動実施者」は、10 件未満であることから、集計対象から除外し、表中の数値は平成 20 年度調査（23,457＝17,747（宿泊費）＋1,557（食事）＋2,871（買物）＋1,282（その他））からの引用である。（ ）内は平均値。その他は中央値。

全区での宿泊関連消費の推計は 17,747（上野）＋9,305（浅草）＝13,526（平均）
13,526＋1,389（飲食平均）＋2,206（買物平均）＋1,526（その他平均）
＝18,647（１泊あたり全区平均宿泊関連消費額）

観光関連、消費額計算のための延べ宿泊者数の推計は、全区観光関連宿泊者実数は 262,718 名の平均宿泊数が 1.48 泊であるので 1.48 を乗して、区内延べ宿泊者人数は 388,823 人である。